日時：平成26年9月2日（火）19時～21時

場所：中央保健福祉センター6階「研修室1」

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
新させぼっ子未来プラン（仮称）の基本理念（案）について（資料2）	
<p>（基本理念の文言について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育ての第一義的責任は保護者にある」という文言が各所で出てくるが、保護者をしっかり指導しなければならない現状があるのか。 ・「社会全体のひと（市民）と一緒に・・・」という文言が意味するところがいまいちよくわからない。 ・「子育ての第一義的責任は保護者にある」、「社会全体が支えていく」という部分を核としてしっかり据えて、誰が、何を、どうするというところを明確に記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度の「子育ては第一義的に保護者の責務」、「地域社会での子育て支援」という理念を生かしたものだ。今回の資料では、抜粋部分だけ載せているため、「保護者の責任」ばかりを謳っているように見えている。 ・次回の資料では工夫したい。
地域子ども・子育て支援事業について（資料3）	
<p>（措置児童、里親制度について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後15年間で児童養護施設入所児童を減らす（より家庭に近いところで措置児童を育てる。）という県の計画がある。当の子ども達は、各地域の子ども。身近な市町村がダイレクトに支援をすべき。里親制度の啓発や広報などをもっとやるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設は県の施設。市には、「子ども子育て応援センター」があり、県の児童相談所と連携しながら子どもの保護を行っている。より一層連携をとっていくこととしたい。
<p>（乳児家庭全戸訪問事業について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭訪問員の資質向上」ということが書かれているが、資質が悪いということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問員は、子育てに孤立した親がいないかを早期にキャッチしなければならないとの理念で、話し方や接し方等について勉強をしながら訪問を実施している。決して現状において悪いということはないと考えている。
<p>（利用者支援事業について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関するいろいろな施設・事業があると思う。行政が携わるべきことであり、現場をよくわかった職員がしっかりと対応できるようにしてほしい。 ・親が何を求めているのかを的確に汲み取ることができる事業でなければならない。 ・地域ごとに保育園、幼稚園、認可外施設などを網羅した所在マップを作って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、保育、施設など全般にわたった様々な相談が想定される。市としても、行政窓口で専門スタッフを置いて対応すべきという認識をもっている。

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待は、全体のうちのごく少数の事例ではあるが、命を守る分野であり優先的・重点的に予算が配分されなければならない。 	
新させぼっ子未来プラン（仮称）の方向性について（資料４）	
<p>（方向性の書きぶりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに改善点があってそれにどう対応しようとしているのかがよくわからない。 ・委員の意見に対して、どのように対応するのかというところが見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箇条書きでエキスだけを記載している。足りない部分はあると思う。次回までに工夫してお示ししたい。
<p>（子ども発達センターについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達センターについて、グループインタビューでスタッフの充実を求める声がある。しっかり対応をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年１月に三か町に移転することとなった。アクセスなどの利便性は今以上に向上すると思う。スタッフの充実は図っていくが、具体的な方法は検討中である。
<p>（ワークライフバランスについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て分野がリードして推進していくという表現はできないだろうか。 ・企業側の意識が低いのは確かであるが、全国で法人税を納められる企業は３割。残り７割は赤字企業。今日明日のことで精一杯という法人側の声をよく聞く。ワークライフバランスを取り入れることが今後生き残る道であることをしっかり発信していきたい。（委員の立場からの発言） ・少子高齢化による労働力不足は目前に迫っており、女性の活躍の場づくりなどに積極的に取り組んでいる。今後は、このような企業が労働者から選ばれる時代になると思う。地道な努力、啓発が必要。（委員の立場からの発言） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども子育て支援の立場から書かざるを得ず、書きすぎることができないが、子育て分野がリードすべきというのはそのとおりは思っている。書き方をもう少し工夫したい。
<p>（児童虐待の指標について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・４５％が終結していないということになるが、終結しない理由は何か。 ・５５％も終結するというのは本当だろうか。虐待は根が深い問題であり、親の価値観を変えなければ解決しない問題。数値に惑わされないようにしてほしい。 ・数値目標を設定すること自体がそぐわない分野なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤ではないが、引き続き市が関与し続ける必要がある家庭（経過観察が必要な家庭）があるため。できるだけ終結に向かうよう努力はしているが、とても難しい問題である。 ・検討したい。